

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の参加状況

第2学年	国語 158人	社会 158人	数学 158人
	理科 158人	英語 158人	

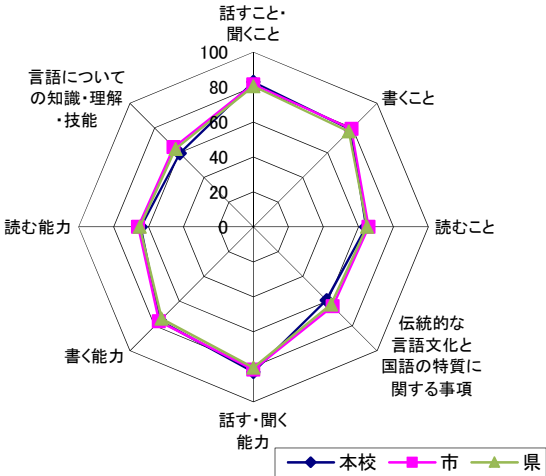
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立旭中学校第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.9	81.6	80.5
	書くこと	78.8	79.4	77.2
	読むこと	64.5	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.2	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	82.9	81.6	80.5
	書く能力	75.7	76.4	74.3
	読む能力	64.5	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	59.6	64.4	63.0



★指導の工夫と改善

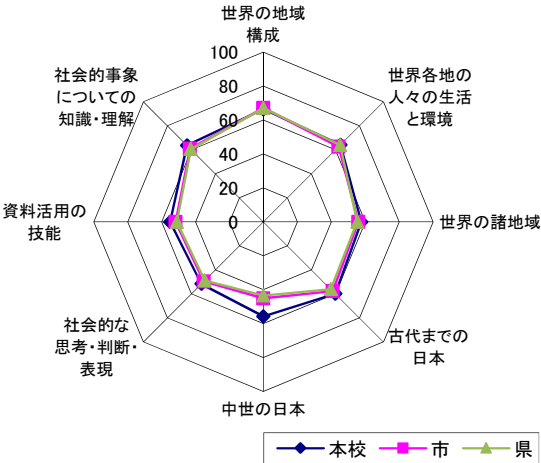
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は82.9%で、県の平均より2.4ポイント高い。特に、質問を正確に聞いて適切な発言を考える問題では、県の平均を7.3ポイント上回った。 ●話の内容を正確に聞き取る問題では、94.7%の正答率であったが、県の平均を1.6ポイント下回った。	・聞き取りのテストなどで、「いつ、どこで」などを意識させ、話の内容をメモを取りながら聞く練習をさせたい。まずは、大まかな内容を正確にとらえるようにさせたい。
書くこと	○領域の平均正答率は78.8%で、県の平均より1.6ポイント高い。特に、自分の立場を明確にして書けているか、という部分の正答率は、県の平均を3.0ポイント上回った。 ●3段落で書けているか、という項目では、69.4%の正答率だった。一文ずつ段落に分けてしまっている生徒が6.6%おり、県平均を3.9ポイント下回った。	・作品の感想などを書かせる際に、「○段落で」などという条件を付けて、条件作文にも慣れさせていきたい。
読むこと	○登場人物の心情・行動や情景描写から、登場人物の様子を捉える問題の正答率は72.4%で、県平均を3.4ポイント上回っている。 ●領域の平均正答率は64.5%で、県の平均より0.5ポイント下回った。特に場面の展開に注意して読み、登場人物の様子を捉える問題の正答率は65.1%で県平均を3.7ポイント下回っている。	・文学的文章では作品を読む際に、場面の展開(時間が変化しているのはどの部分か、違う場所になっているのはどこからかなど)を意識しながら読ませたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○模型という漢字の書き取りは71.7%の正答率で、県平均を22.6%上回った。 ●領域の平均正答率は、59.2%で、県の平均より3.6ポイント下回っている。特に、乱という字の書き取り問題の正答率は、49.3%で、県平均を17.5%下回った。	・漢字の小テストや、新出漢字の確認の際に、間違えやすい字を取り上げ、説明していきたい。また、それ以外の板書時にも、難しい字の説明の時間を取りたい。

宇都宮市立旭中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	66.4	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	64.3	62.6	63.9
	世界の諸地域	57.6	55.9	55.3
	古代までの日本	59.9	57.8	56.2
	中世の日本	55.8	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	51.7	49.7	48.9
	資料活用 of 技能	55.0	51.8	51.0
	社会的な事象についての知識・理解	63.7	61.1	60.6



★指導の工夫と改善

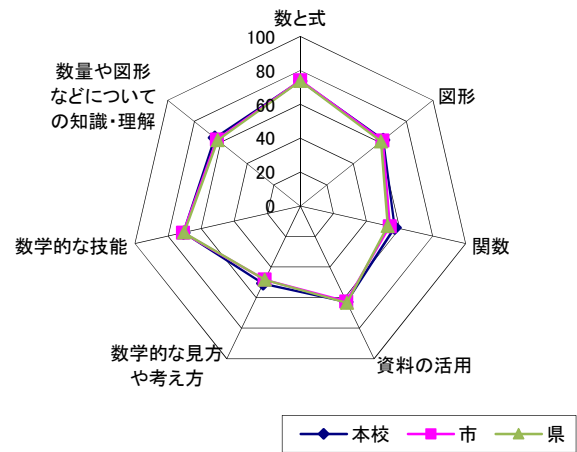
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○世界の海洋の分布の理解では県の正答率を10%以上上回っている。 ●領域の平均正答率は66.4%で県よりも1%下回っている。特に世界の主な国々の名称と位置は10%も下回っている。	・基本的な地域名や国名、位置を定着させるため特徴のある写真資料などをつかい興味・関心を高めさせるとともに、地球全体から各国々をとらえられるように指導していきたい。
世界各地の人々の生活と環境	○領域の平均正答率は県平均よりも1%上回っている。 ●世界各地の人々の住居についての理解が61.6%と県平均より9%も下回っている。	・雨温図など、グラフの読み取りなどあまり得意でない傾向は1年生のころからあり、より多くの資料に触れさせ資料活用 of 技能が高まるよう指導してきた。引き続き継続して指導していきたい。
世界の諸地域	○領域の平均正答率は2%上回っている。 ●西アジアの石油生産量のグラフの読み取りや、アジア州の産業の発展について、資料から読み取り説明することが県平均よりともに2%下回っている。	・州ごとの学習で気候・産業・文化を羅列的に身に付けさせるのではなく、社会的事象を関連付けて理解させるような指導を行っていく。
古代までの日本	○領域の平均正答率は3%上回っている。 ●弥生時代の特色については県平均より2%下回っているが、市町村正答率で比較すると4%も下回っている。	・古い絵巻物や、絵画を用いるなど資料からその時代の特色や時代背景を読み取る学習を今後も引き続き継続することで、資料から読み取って内容を説明できる力を高めさせていく。
中世の日本	○領域の平均正答率は12%上回っている。 ●承久の乱についての理解をもとに、鎌倉幕府のしくみの変化について考え、説明するでは県より上回っているが5%にとどまっている。	・文化史など写真資料や美術館資料など興味・関心を引く授業を今後も引き続き継続し、各時代を大観する時に政治内容に偏りすぎないように指導していきたい。

宇都宮市立旭中学校第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	73.8	74.1	73.8
	図形	62.6	62.0	60.9
	関数	57.1	54.1	52.9
	資料の活用	62.8	62.5	63.4
観点	数学的な見方や考え方	50.7	48.2	48.3
	数学的な技能	70.7	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	64.5	62.9	62.3



★指導の工夫と改善

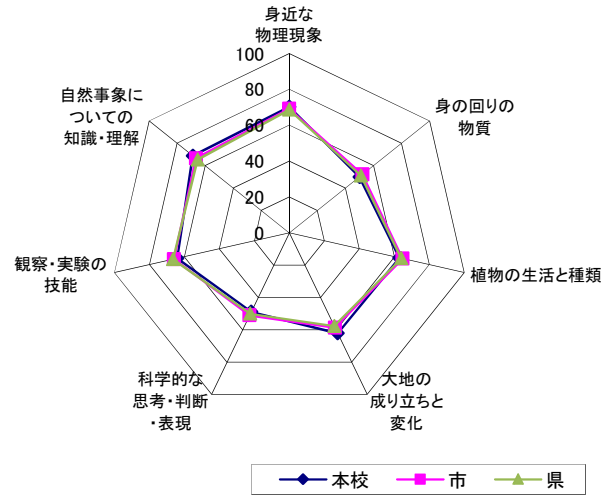
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の正答率は、県の正答率と同値、市の正答率より0.3ポイント低い、方程式や比例式の基本的な問題は概ね理解していると考えられる。特に数量間の関係を等式に表す問題では、県の正答率よりも3.6ポイント、市の正答率よりも2.5ポイント高い。 ●同類項をまとめる問題が、県の正答率より8.2ポイント低い。	・同類項をまとめる問題の平均正答率が低いことから、正負の計算につまづきを感じている生徒がいると思われる。内容の定着のために、授業の中ではしっかりと途中計算を書かせるとともに、机間指導中に細かく指導していきたい。
図形	○領域の正答率は、県の正答率、市の正答率よりもそれぞれ上回っている。特に、円柱の表面積を求める問題や球の体積を求める問題の正答率が高いことから、図形に関する理解度が高いと考えられる。 ●作図の問題が、県の正答率より0.3ポイント、市の正答率より0.7ポイント低い。	・作図に関しての理解度が低いことから、図形分野の単元において、作図を利用した授業の展開をしていく。
関数	○領域の正答率は、県の正答率、市の正答率よりもそれぞれ上回っている。関数関係の問題7問のうち、5問が県の正答率、市の正答率よりも高い正答率になっている。 ●比例の関係について説明した正しい文章を選択する問題が、県の正答率より1.7ポイント、市の正答率より0.2ポイント低い。	・用語の意味や性質をしっかりと理解させる必要がある。関数分野の単元において、1年次の学習内容をもう一度確認させる。
資料の活用	○領域の正答率は、県の正答率より0.6ポイント低く、市の正答率より0.3ポイント高い。理解することが難しい内容ではあるが、基本的な問題は概ね理解していると考えられる。 ●階級の相対度数を求める問題が、県の正答率より7.5ポイント、市の正答率より5.0ポイント低い。	・用語の意味や性質をしっかりと理解させる必要がある。資料の活用の分野の単元において、1年次の学習内容をもう一度確認させる。

宇都宮市立旭中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	70.2	69.2	68.6
	身の回りの物質	50.1	52.2	51.1
	植物の生活と種類	63.0	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	62.2	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	48.9	51.1	50.1
	観察・実験の技能	64.1	66.0	66.5
	自然事象についての知識・理解	68.8	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

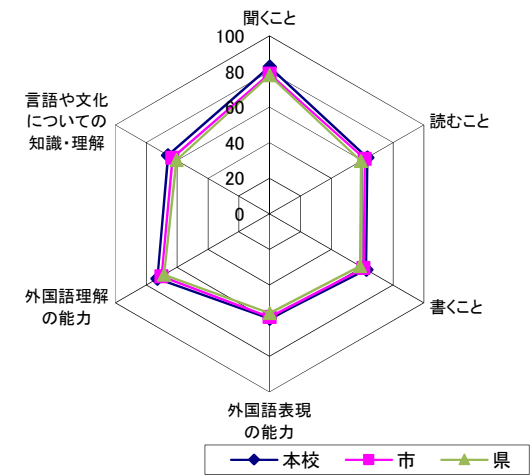
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○領域の平均正答率は70.2%で市や県よりも上回っている。特に「光と音」と「力と圧力」における実験方法の説明と結果をグラフ化する問題では市や県よりも3%以上上回っている ●光の進み方の問題では市や県よりも1%下回っている	・市や県よりも大幅に上回っているわけではないため、わかりやすい授業を継続的に行う。 ・光の進み方など図で理解する必要がある実験においては情報機器を使用し、理解しやすくする。
身の回りの物質	○気体の発生方法と捕集方法の問題では県平均より10%以上上回っている。 ●領域の平均正答率は50.1%で県よりも1%下回っている。特に水溶液中の溶質の様子モデルの理解が県より15%下回っている。また混合物の沸騰と温度変化においても県より5%以上下回っている	・水溶液中の溶質の粒子は目に見えないため、モデルを絵や図で表す方法を工夫する。 ・また、温度変化においてはなぜそのような結果になるのか、系統的な実験を行い、グループ内で説明しあう学習を取り入れる
植物の生活と種類	○植物の花のつくりや根、茎、葉のつくりの問題では県よりも10%以上上回っている ●領域の平均正答率は63.0%で県よりも1%下回っている。特に植物をスケッチしたり顕微鏡で観察したりする技能的な問題や対照実験を行う理由や分類など思考的な問題では県より5%以上下回っている	・技能的な問題は顕微鏡やガスバーナーなどの使い方テストやグループ内での教えあい活動を行うようにさせて、道具や方法を確実に身に付けさせる。 ・思考的な問題では実験・観察の意味を生徒側に考えさせ、対照実験の必要性などを理解させる。
大地の成り立ちと変化	○領域の平均正答率は62.2%で市や県よりも3%以上上回っている。特に岩石の特徴においては県よりも10%以上上回っている ●地震計の記録から初期微動継続時間を推測する問題では県よりも6%以上下回っている	・岩石の特徴では多くの観察機会を与えたことで、定着したと考えられるため継続していく。 ・地震計の問題では地震計が表す意味を理解させるため、数多くの記録を見せ、その記録からわかることをグループ活動で考えさせる。

宇都宮市立旭中学校第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	82.6	78.7	77.8
	読むこと	63.3	61.7	59.2
	書くこと	62.7	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	58.9	57.9	55.8
	外国語理解の能力	72.8	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	65.9	63.0	60.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の平均正答率は82. 6%で、県の平均より4. 8ポイント高い。特に対話文を聞いて、大きさや数を聞き取る設問では、県の平均よりも6. 5ポイント高い。 ●対話文を聞いて物やその物の位置を聞き取る問題の正答率は92. 1%で、県の平均よりも0. 3ポイント低い。	・位置関係を説明する前置詞の使い方をもう一度よく説明する。また前置詞を日常の表現活動の中に意識して取り入れ、使い方に慣れさせたい。
読むこと	○領域の平均正答率は63. 3%で、県の平均より4. 1ポイント高い。特に対話文の中での、一般動詞の疑問文の理解は、県の平均よりも15. 8ポイント高い。 ●対話文の中でBe動詞の疑問文の理解の問題の正答率は、県の平均よりも2. 7ポイント低い。	・Be動詞の使い方について、もう一度よく説明をする。特に疑問文の作り方とその応答について、練習問題を取り組ませたい。また、日常の対話活動の中に取り入れて、使い方にも慣れさせたい。
書くこと	○領域の平均正答率は62. 7%で、県の平均より4ポイント高い。特に疑問詞を用いて、文の構造を理解し正しい語順に並べ替える設問は、県の平均よりも6. 3ポイント高い。 ●テーマに基づく、英作文の問題の正答率は70. 2%で、県の平均よりも2. 5ポイント低い。	・英作文の力を向上させるために、現在行っている基本文練習カード(センテンステスト)の練習の充実を図る。また授業の中で、書く時間を確保して段階を踏んで文を作れるようなワークシートを用意して取り組ませたい。

宇都宮市立旭中学校第2学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○学校の様子に関する「授業ではクラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っている」や「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答は、県、市の平均値を上回った。

○自分自身に関する「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」や「時間や約束を守ることは大切だ」の肯定的回答は、県、市の平均値を上回った。

また、「社会に役立つような人になりたい」の肯定的回答では県の平均値を上回った。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」や「自分の行動や発言に自信を持っている」では、肯定的回答が県・市の平均値を下回り、自分自身に自信が持てていない結果が出てきた。今後は、自己肯定感を高めたり、自分の行動に自信が持てるように、お互いに認め合う学習などの充実を図る。